

来年度の国内大会の件

提 案 書

競技委員会 審判委員会

1) 全日本選手権大会自選難度種目の件

- ・前日練習は一般種目と時間を別に設定して行う。
- ・大会当日、自選難度選手のメインアリーナ練習はお昼休憩のみとする。
※選手強化コーチが立ち会うこと
- ・今後、自選難度選手がさらに増えるとサブアリーナの使い方も検討が必要となる。
- ・入場に時間がかかるため、アナウンスをなくし、通常種目と同じようにする。
- ・審判から得点が見えづらいため、一台のモニターは審判に向ける（25年大会実施済）。
- ・自選難度太極拳競技は体育館メインスピーカーを使用しているが、音量が大きく他の競技に影響があるため、コート専用のスピーカーを設置するなど対策を検討する。
- ・現在、自選種目には自選部門・自選難度部門などがあり、一般やメディアの方には、分かりづらい傾向があるため、自選難度部門の表記を『強化指定国際競技部門』または『国際競技部門』などに変更する。

その他

- ・規定難度太極拳のホイッスルは行わない。

2) JOCジュニアオリンピックカップ大会の件

- ・2027年度以降の大会についても、日本代表選手選考の対象年齢を当該国際ジュニア大会の年齢規定に準じる一方で、大会参加は現行どおり18歳の参加を認める方針とする。→提案に対し意見があり、後日協議となつた。議事録参照。

3) 2027年全日本選手権大会における長拳・南拳種目の套路構成ルールに関する件

※各器械を含む

長拳・南拳種目が自選套路になるのに合わせ、2005年国際武術套路規則・第4章自選套路内容の関連規定に基づき、また日本国内での状況等を考慮して以下の内容を変更加える。

・必選動作について

1. 長拳：変更なし
2. 剣術：「掛剣～背後穿掛剣があること」を除く
3. 刀術：変更なし
4. 槍術：連続3回の完全な攔拿扎槍があること
→攔拿扎槍を連続して行うことに変更
5. 棍術：両手で行う連続3回の完全な提撩花棍があること
→両手で行う提撩花棍を連続して行うことに変更
6. 南拳・南棍・南刀変更なし

・跳躍動作制限について

1. 長拳：3種以上6種以内
2. 刀術・棍術：2種以上6種以内
3. 剣術・槍術：5種以内
4. 南拳：1種以上5種以内 ※盤腿（パンタイ）を含む
5. 南棍・南刀：5種以内

※重複する跳躍は不可（連接動作が異なる場合は可とする。減点はなし）

・套路構成について、套路減点はない

その他、ルール・問題点について、その都度審判委員会と競技委員会で協議を行う。

以上